令和３年度保健師職能だより

【発行日】令和４年４月
【発行責任者】公益社団法人島根県看護協会　会長　秦美恵子
【編集】保健師職能委員会

保健師職能委員長あいさつ　　保健師職能委員長　藤谷明子

新型コロナウイルス感染症による未曾有の感染拡大は、通常の保健活動を後回しにし、県内全ての保健師が相談、検査・受診調整、積極的疫学調査、入院・自宅療養調整、濃厚接触者の特定・健康観察、感染防止対策、クラスター対策、ワクチン対応等多岐にわたる業務に追われる状況となっています。

これらの状況も踏まえ、保健師職能委員会では、新型コロナウイルス感染症対策をテーマに研修会を開催し、自宅療養や高齢者施設対応等で直面している新たな課題を県内保健師が共有することにより、第６波への対応に繋げることができました。

しかし、令和４年度に入ってからも感染者の減少は見られず感染者の増大により、保健師は、コロナ対応に追われている状況が続いています。改めて、感染症業務のみならず分野横断的に保健活動を推進するために、感染拡大防止の経験値を活かし、保健師業務に関連する総合的な能力を身につけていくことが重要であると考えます。そのためにも、①コロナ禍における保健活動のあり方、②採用されてからコロナ対応に追われる新任保健師の人材育成、③保健師としてのコロナ対策等について、保健師職能でも１つずつ検討を重ねていきたいと考えています。

一方、島根創生計画の柱である「健康寿命延伸」、「地域特性に応じた地域包括ケアシステムの推進」が求められていることから、今年度は、保健師・助産師の連携強化、多機関で働く保健師間の顔の見える関係づくりを目標とした活動を実施しました。研修では、少しでも交流の時間を大切にし、多くのご参加を頂き、満足度の高い研修となりました。また、保健師職能交流会では、「保健師を目指す学生が多くなってほしい」ことを願い、学生の参加を募ったところとても好評でした。これを機に他の職能研修会でも学生が参加できるようになった事は、保健師職能委員会の１つの成果と思います。

令和４年度は、新型コロナウイルス感染症対策への対応や保健師・助産師の連携強化に加えて、健康寿命延伸に向けて、産業保健分野に働く保健師との連携・協働した保健活動の進め方の検討や多職種連携を深め、地域包括ケアシステムの推進に努めていきたいと考えています。また、保健師職能だより等も活用しながら、会員拡大に向けた活動も行っていきたいと思っています

今後も、県看護協会の活動に関心を持ち、仲間を増やし、一緒に活動していただけることを切に願っています。保健師職能委員会では、現場の皆様の意見を聞きながら、現場に即した活動を実施していきますので、一人でも多くの会員が増えるように、皆様ひとりひとりが周りにお声かけをお願いします。

そして、島根で暮らす人々の健やかな暮らしを支えるために、様々な場面で働く保健師の力を結集し、島根の保健師活動を発展させていきましょう。

保健師職能交流会

令和 3 年 10 月 23 日（土）、大田市あすてらすにおいて保健師職能交流会を開催しました。

保健師は、子どもから高齢者まで、保健・医療・福祉・介護等多分野から期待され、県内でも様々な機関等で活躍しています。そこで、多機関で働く保健師が一堂に会し、日ごろの活動や悩みを共有し、私たちが支援している人々が住み慣れた地域で安心して生活できる体制づくりを目指すため、保健師間、多職種・多機関との連携強化を図ることを目的に行いました。学生の参加もあり、参加者は定員 40 名を超える 47 名でした。

交流集会の概要

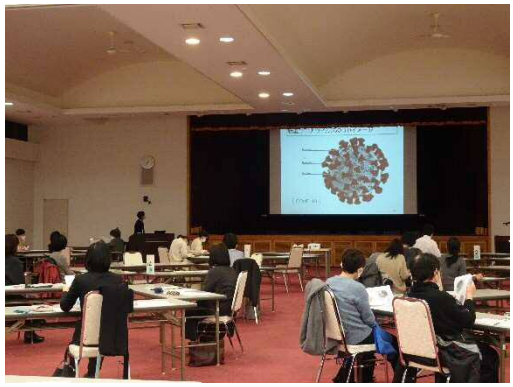
【導入】県看護協会 副会長の永江尚美氏から「地域包括ケアシステムの構築に向けた保健師間・他職種・他機関の連携のあり方として」というテーマで、チームワークの大切さについての講演がありました。

【活動紹介】①済生会江津総合病院 石田陽子氏から「病院における保健師活動の取組」②島根大学保健管理センター出雲 和田葉子氏から「働く女性のメンタルヘルスと保健師との連携」③大田市 伊藤公美子氏から「母子保健活動から感じること」④中央児童相談所 細田舞氏から「児童相談所における保健師の役割と地域との連携」をテーマにお話いただきました。

多機関で働く保健師の話を聞き、連携を考える機会となり、「多くの参加者から充実した時間だった」という感想がありました。若手保健師からは、「立場の違いがあっても保健師の強みはどこの職場でも活かしていけること」や「先輩保健師の発表は大変学びになった」という感想がありました。経験年数 10 年以上の保健師からは、「目的ある連携の大切さを認識し、今後も多機関と連携し保健師の専門性を活かしたい」という感想がありました。

今回の交流会は、導入で連携のあり方を学んだ上で、活動紹介を聞くスタイルになっていたことが好評でした。また、席次がグループ形式で互いに声をかけ易く交流ができましたが、「もっと話したかった」という声も聞かれました。

保健師職能研修会



令和３年 12 月 18 日（土）、朱鷺会館（出雲市）において保健師職能研修会を開催し、30 名の参加がありました。

内容は、昨年度の保健師職能研修会で好評だった「コロナ対策」をテーマに、今回は県内の発生状況の特徴や現場での取り組みを通し、新型コロナウイルス感染症における公衆衛生看護の役割について共有することを目的に開催しました。

基調講演は、昨年に引き続き隠岐保健所　所長　柳楽真佐実氏より、新型コロナウイルス感染症のこれまでの経過に加え、県が蓄積している疫学的統計データを元にした感染動向や新型コロナウイルスワクチンに関する基礎知識について、詳しく説明いただきました。

活動報告では、浜田保健所の深崎美樹氏より、第５波の中、急増する自宅療養者を支援するための体制づくりについて、保健所の役割（支援機関との連携・調整）の実際を当時のご苦労を交えながらご報告いただきました。

出雲保健所　松原史典氏からは、高齢者施設への感染予防対策についてお話しいただきました。その中で、平時からの住民への正しい情報・理解の普及啓発が大切であること、施設等への一方的な「指導」ではなく、常に一緒に考える姿勢を忘れないことが大切であると話されました。

グループワークでは、短時間の中、参加者同士での意見交換が活発に行われ、「他の保健所の取り組みを聞くことができ、今後の参考にしていきたい」「県や保健所の活動の実際の様子がとてもよくわかった」「市町村としてできることを取り組みたい」「市町村の人と交流ができ良かった」など、所属の異なる保健師の役割について相互理解を深め、個々の保健師としての専門性や役割を改めて認識することができ、有意義な時間となりました。

保健師・助産師職能合同研修会

令和３年９月11日、朱鷺会館（出雲市）で、県看護協会では、初めての「保健師・助産師合同研修会」を開催し、保健師25名、助産師19名、看護師１名の合計45名の参加がありました。

始めに、県健康推進課子育て包括支援スタッフ 西明美氏より、県内の母子保健の現状、今後の取組として、①保健・福祉・医療（産科、精神科、小児科）の連携強化と支援、②「育児指導」から「育児支援」、③妊娠中からの支援、④共通したアセスメントの実施等の説明がありました。

講演では、リモートで日本看護協会 常任理事 鎌田久美子氏からご講演を頂き、「2025年に向けた看護の将来ビジョン」、国の動向を踏まえた「地域包括ケア実現を保健医療福祉連携システムの構築事業（R2日看協）」の結果から、連携システム構築段階と保健所保健師の役割、「連携モデル」の説明があり、他組織・多職種と連携強化を効果的にするには、①地域を知る、②共通認識、③ネットワークを築くことの重要性が強調されました。

活動報告では、松江市子育て支援センター長 峯彰子氏より、松江市の産後ケア事業の実績報告があり、課題を踏まえて今後の取組として①保健師の力量アップ、②事業の評価、③宿泊型の産後ケアの導入の検討など、活動の現状と課題についてわかり易く報告いただきました。

山本助産院 山本喜久子氏からは、産後ディケアが平成28年度からスタートし、令和元年度からアウトリーチを実施し、令和２年度には利用者が倍増したという報告がありました。日頃から、病院、益田市保健師、勤務助産師、開業助産師との顔が見える関係の中、活き活きと活動しておられる様子がとても印象的で、関係機関との連携づくりは県内でもモデルとなるような取組でした。

勤務助産師の立場から、県立中央病院 母性病棟 副看護師長 安食星子氏からは、今後取り組むべき課題の１つである妊産婦のメンタルヘルスへの対応の実践報告があり、地域毎の連携体制づくりに参考となる取組でした。

参加者からは、「地域包括ケアシステムの全体像が理解できた」「保助相互の活動内容や役割が理解できた」「連携の重要性を再認識した」等の感想に加えて、「今できることからしたい」「褥婦のサポートに取組みたい」「保助で連携していきたい」など現場の実践に繋がる意見や、合同研修の継続を望む声が多くありました。今後も、保健師・助産師合同研修会等を重ね、保健師と助産師が地域毎に顔の見える関係づくりを深め、島根の母子支援の体制づくりに力を合わせていきたいと思います。

★職場紹介：企業の保健師の活動★

山陰合同銀行

山陰合同銀行 人事部 生活健康相談室　保健師　石田順子

山陰合同銀行は山陰両県を拠点とした、国内本支店70、出張所79、国内事務所1（東京）、海外事務所3（大連、上海、バンコク）を有し、約3000人（関連会社含め）が働く地方銀行です。2018年に頭取を責任者として、『行職員一人ひとりがかけがえのない銀行の財産』の理念のもと健康経営宣言を策定し、行職員の一人ひとりの健康の保持増進を図っています。私が所属する人事部生活健康相談室は、室長（キャリアコンサルタント）、産業カウンセラー1名、保健師3名、事務担当1名のスタッフ構成の他、嘱託産業医10名、メンタルヘルスアドバイザーの精神科医1名にご協力をいただき産業保健活動を推進しています。

主な業務は、健康診断後の事後措置（重症化予防）、特定保健指導、心身疾患復職支援（復職後フォローアップ）、長時間労働対策、ストレスチェック、毎月１回の衛生委員会の開催等、活動は多岐にわたり、保健師と産業医、外部相談機関との連携はますます深まっています。

また、ストレスは心身の健康に直結し業績にも大きく影響するため、メンタルヘルス対策には特に力を入れ取り組んでいますが、このコロナ禍においては、支店巡回での個別健康相談もままならずもどかしい思いをしています。まだまだ課題が多い中ですが、今後は「健保組合とのコラボヘルス」の取り組み強化、高齢労働者の増加や働き方の多様性から「治療と仕事の両立支援」の整備が急がれるところです。

今後も業界を取り巻く環境は厳しい道のりが続きますが、行職員の健康を心身両面でサポートし、長く活躍できる環境整備に努めていきたいと思います。最後になりますが、看護協会に入会し、多方面で活躍されている保健師の方々から様々な情報を享受でき刺激を受けたこと、お互いの顔が見える関係性の先にある連携（勝手な将来構想ですが）、そして働く場は違えども同業者として心の底にある「ひとの健康のために動く、働く」思いが一致する瞬間は、何よりも心強い応援メッセージとなっています。引き続きどうぞよろしくお願いします。

生活健康相談室のメンバー（向かって左から）

前：室長、カウンセラー

後：井山保健師、景山保健師、石田保健師

★職場紹介：病院の保健師の活動★

雲南市立病院地域医療部保健推進課

雲南市立病院 地域医療部　保健推進課　渡部　初枝

当院の保健師は、平成２年度に初めて採用され、保健福祉部門を担う部署に配属されました。平成８年頃までは訪問看護業務を主に行っていましたが、現在は健診事業や健康教育を主な業務としています。そのほかに予防接種、産業保健業務、患者会活動支援、在宅療養指導、院内サロンの運営など幅広く保健活動を行っています。

当院の基本理念である「地域に親しまれ、信頼され、愛される病院～地域と共に地域を支えていく病院～」を胸に、これからも地域住民をはじめ、保健関係者や関係機関と連携をはかり、協働しながら、地域住民のための活動を行っていきたいと思っています。

痛くない採血を目指しています！

特定保健指導もしています

さまざまな健康教室を行っています。

地域に出向き、地域住民や市の保健師等と協働して開催することもあります。

最後になりますが、保健師職能委員を引き受けて最も良かったことは、委員をしていなければ出会うことがなかった、各分野で働く保健師や看護協会の方々に出会えたことです。「顔見知り」になることで気軽に相談できたり、情報交換ができたりと、相互の連携が図りやすくなると思います。また、必要な最新情報や看護に関する国の動き等がタイムリーに入手できることも魅力です。これからの保健活動を行う上できっと役立つことと思います。「委員を引き受けてください。」と推薦委員の方から声がかかりましたら、保健師の新たな仲間づくりの絶好のチャンス！と思い、ぜひ委員を経験してみてください。

地域医療部のメンバー

（医師、看護師、MSW、事務員、保健師）

看護協会の会員になり一緒に活動しませんか

＜看護協会に会員になって良かったこと＞

■職能としてのつながりの確認からの安心感、相談できる仲間

■多機関の保健師、他の看護職の活動を知り、交流し、自分の役割の認識

■保健師だけでなく看護師や助産師、訪問看護師等のネットワークづくり、仕事に役立つ絆づくり

■国、県の最新情報をタイムリーにキャッチできる場

■モチベーション向上、仲間づくり、学びの場、人脈づくり、人生の財産

良かったこと

◆違う職場の保健師の活動を知ることができる
◆他職種や他施設の仕事を学ぶことができる
⇒いろいろな看護職と交流し、自分の役割を認識することができる

◆職能団体に加入している安心感
◆孤立していない。私はやっぱり保健師なんだ。仲間と一緒の安心感
◆保健師が少数の職場にいると不安なことも多いが、相談できる安心感、相談できる場がある

◆看護や保健に関する国・県等の最新情報を的確に得ることができる
◆コロナ対策等いろいろな最新情報を得ることができる
◆看護協会ニュースは、職業人として国の動きを知るなど学ぶ機会になっている
◆全国の動きをタイムリーに得ることができる

◆支部活動に参加して看護師、助産師、訪問看護師と顔なじみになることができる
⇒研修等のグループワーク等を通じて繋がるきっかけとなる
⇒本来業務でも繋がりやすくなる。困ったときに相談できるようになる。業務に役立つ
⇒自分の財産になっている、人脈ができる

◆保健所や市町村保健師に関する研修以外の学びがある
◆研修に参加し、いろいろな人と話し合い、モチベーションが上がる、元気になる
◆職場や職種が違っても同級生と会ったりでき楽しい　頑張りをもらえる

会員にならない理由

●会費が高い中で、加入のメリットが分からない

●役員に当たると負担

看護協会 保健師加入数（4/3 現在）282 人（52.6%）

松江（62.7%）雲南（68.3%）出雲（42.9%）大田（26.7%）

浜田（39.3%）益田（48.3%）隠岐（81.5%）

令和４年度の活動計画です

是非ご参加ください

保健師職能交流集会

日時：令和４年６月18日（土）

場所：ビッグハート出雲

テーマ：保健師間の連携

保健師職能研修会

日時：令和４年11月５日（土）又は

令和４年11月６日（日）

場所：あすてらす

テーマ：地域と職域と連携した健康づくりの推進

誘い合ってみんなで参加しましょう

*新しい出会い！多くの学び！*があります

保健師・助産師合同研修会

日時：令和４年８月28日（日）

場所：朱鷺会館

テーマ：母子における地域包括ケアシステムの推進～保健師・助産師の顔の見える関係づくり～

保・助・看３職能研修会

日時：令和４年９月３日（土）

場所：朱鷺会館

テーマ：コロナ対策における看護職の役割

令和３年度保健師職能委員の紹介

堀江亜由美（松江保健所）/竹原千春（大田市役所）/伊藤智子（島根大学医学部看護学科）

石田順子（山陰合同銀行）/渡部初枝（雲南市立病院）/藤原敬子（奥出雲町役場）

編集後記：令和３年度版の保健師職能だよりを作ることができました。会員の皆様が積極的な研修等へ積極的なご参加を頂き、コロナ禍ではありましたが多くの成果を得る１年となり、その一端を会員・非会員の皆様にお伝えすることとしました。保健師は、今の職場を退職しても保健師であり免許職を有する専門職です。今や人生100年の時代で、コロナ禍のため退職した保健師も全てが現場で何らかの業務についています。いつまでも保健師としてあり続けるためにも職能としてのつながりや学びは重要です。是非、一緒に参加してみませんが。まずは、研修に顔を出してみてください。（F.A.）